

現代総有研究所

● オンライン開催 ●

2020 年度研究発表会

&

シンポジウム 「現代総有と新型コロナ」

9月26日（土）

第一部・研究発表会 13：00～14：00

第二部・シンポジウム 14：00～16：00

参加費無料
要申込

土地基本法の約30年ぶりの改正で土地の適正な「利用」「管理」が目指され、今秋には民法改正が予定される等、ようやく「現代総有」（みんなで共同して土地・海面・森林、都市などなどの地域資源を利用して、その恩恵・利益を地域全員・全体に還元していく）の実現へパラダイムシフトが生じようとしており、

いかに実践する知見を集積していくかというフェーズに入ったはずであった。

そこに思いもよらない「新型コロナウイルス感染症の拡大」である。

人々の「つながり」によって成り立つ「現代総有」には大変深刻な問題である。

ただ、このような状況下でも、現場で新たな「つながり」を構築する取組は困難を抱えつつ歩みを進めている。

こうした地に足がついた動きの知見の共有を止めてはならない。

一方で、「社会がどうなっていくのか」という大きな視点での考察も必要であろう。

今すべきことは何か。地に足のついた実践も、大きな視点も、一度に関連する様々な知見を集め、

とにかく大いに議論することが大切なのではないか。

それが、今後の社会をけん引する思考の構築の第一歩となるのではないか。

そう考えたのである。多くの参加を希望する。・

参加申込・問合せ

現代総有研究所ホームページ

<http://www.soyuken.jpn.org>

問合せ Info@soyuken.sakura.ne.jp

または→



主催：現代総有研究所

<http://www.soyuken.jpn.org>

第一部・研究発表会 13:00～14:00

- ① 「世界遺産京都の文化的景観保全」発表者田尻恵子
- ② 「マンションの建替問題」発表者中里幸生
- ③ 「都市を巡る市民の権利と司法」発表者日置雅晴

司会 野口和雄

なお、会報「現代総有2号」にそれぞれの論文が掲載されています。会報は当研究所ホームページから購入いただけます。

第二部・シンポジウム『現代総有と新型コロナ』14:00～16:00

司会：五十嵐敬喜 現代総有研究所所長

◎テーマ1（当面の施策の方向性）

○報告1 14:05～14:15

参議院内閣委員会調査室長 宮崎一徳

「骨太の方針2020「新型コロナウイルス感染症下での危機克服と新しい未来に向けて」と土地基本法の改正等の展開」

○報告2 14:15～14:25

渡辺治建築都市設計事務所 渡辺 治

「ジョンソントウン再生と新型コロナ」

○報告3 14:25～14:35

コミュニティファシリテーター 一般社団法人トリナス代表理事 土肥潤也

「シャッター通り商店街の私設公共空間」

◎テーマ2（新時代の思考の方向性）

○報告1 14:35～14:45

日本大学生物資源科学部特任教授 糸長浩司

「パンデミックとまちづくりむらづくり 一時場の崩壊から未来総有による再構築は可能か」

○報告2 14:45～14:55

京都産業大学客員教授、静岡県対外関係補佐官 東郷和彦

「ウイズ・コロナ時代の日本：「孤独への放擲」の超克へ」

○報告3 14:55～15:05

グローバルコンサルタント 岩井 篤

「個化社会と新しいつながり」

○報告4 15:05～15:15

非営利建築事務所 General Architecture Collaborative 代表、アメリカ・セラキユース大学建築院准教授 庄 ゆた夏

「よそ者と作るコモンズ ―コロナ禍と#BLMから総有を考える。」

◎ディスカッション 15:15～16:00

参加者からの声、会場ディスカッション、司会者まとめ